

哲學研究

第四十六卷 第六册

第五百三十六號

昭和五十四年 四月 十日發行

カントの義務論……………	ヒュームに於ける「外界」と 「自我」の問題(完)……………	マックス・ヴェーバーにおける 理解の方法(承前)……………	「現實」……………
長岡成夫	田中進	西谷敬	森口美都男

京都大學文學部内
京都哲學會



京都哲學會規約

- 一、本會は廣義における哲學の研究とその普及を圖ることを目的とする
- 一、右の目的のために左の事業を行う
 - (一) 會誌「哲學研究」を發行する
 - (二) 毎年公開講演會を開く
 - (三) 隨時研究會を開く
- 一、本會の事業を遂行するために委員若干名をおく
委員は京都大學文學部哲學科教官及び委員會において推薦したものに委嘱する
- 一、本會は賛助員若干名をおく 賛助員は會員の中から委員會が推薦する
- 一、本會は會員組織とし會員には資格の制限を設けない 學校・圖書館・其他の團體は團體の名を以て入會することができる
- 一、會員は會費として年二、〇〇〇圓（會誌三冊分を含む）を前納する
- 一、會員は會誌の配布を受け會誌に豫告する諸種の行事に出席することができる
- 一、本會は事務所を京都大學文學部内におく
- 一、規約の改正は委員會の決定による

京都哲學會役員

委員

柿崎祐一 梶山能一 木會好修 酒井亮三 佐々木善 清水一 杉山聖一郎 辻村公一郎 中谷裕久 西谷裕 長谷正 服部正 平野俊二 藤澤令夫 水藤垣 武藤一 本吉良 森口美都 山田都 湯淺幸 吉田幸 岡健二 郎

次 号 論 文 予 告

- 支配変動論……………池田 義祐
- ホワイトヘッドと西田哲学
——神と世界との関係をめぐって——
……………山本 誠作
- 認識と超越……………杉山聖一郎
- カント哲学の場合——
- 芸術の過去性をめぐる一考察……………米澤 有恒
- ハイデッガーの哲学を中心として——

前 号 目 次

- 歴史知識における理論 (二)
……………クルト・ヒュブナー
- ……………神野 慧 一 郎 訳
- 絵画空間について (中)……………新田 博衛
- アルベルティとヒルデブランドト——
- デカルトの合理主義について (二)……………山田 弘明
- 理性の意義と役割——
- 書評『シェリング全集』第一巻……………大橋 良介

議論と大いに異なっている⁽¹⁾。

以上の議論によって、目的の王国の公式を強調する形で定言命法諸公式間の関係を考える事ができるだろう。即ち、定言命法とは他人に対する義務に関わるものであり、それは目的の王国という概念を通してのみ意味を持ちうるものである。又自己自身の義務とは定言命法をも可能にするような内的自由から直接に導き出されるものなのである。

(1) Rawls, op. cit. pp. 438-9参照。

(筆者 京都大学文学部「倫理学」研修員)

会 告

京都哲学会前委員、京都大学名誉教授、井島勉先生は昭和五十一年九月以来病氣御療養中でありましたが本年五月十二日夜、京都市内の聖ヨゼフ整肢園において逝去されました。原因は脳血栓との事であります。

先生は昭和二十二年より昭和四十七年まで、二十五年に涉つて文学部美学美術史学講座を担任され、植田壽蔵教授の学風の継承発展と研究者の養成に尽力されました。殊に先生は昭和二十八年四月以降山内得立本学名誉教授より京都哲学会会長の仕事を引継がれ会の維持発展の為に意を用いられました。会の運営に関する先生の功績は忘れることができません。

井島勉先生の御逝去に先立ち、同じく京都哲学会前委員、京都大学名誉教授、上野照夫先生も昭和五十年一月十七日に御亡くなりになりました。上野先生は京都大学附属病院で御療養になっておられましたが、心不全の為永眠されました。上野先生は昭和二十六年から昭和四十三年六月まで教養部教授を勤められ以後昭和四十六年三月退官されるまで、文学部美学美術史学第二講座を担任されました。先生は京都哲学会の庶務を多年に涉つて担当され、われわれは皆、何らかの形で先生の御世話になつております。

今ここに改めて両先生に対し深い感謝を捧げると共に

両先生の御冥福を心より御祈り申し上げる次第です。

昭和五十三年十一月一日

京都哲学会

会 告

過日、会費請求の際、失礼のありましたことを深くおわび申し上げます。

京都哲学会

九五

會 告

一、本會は會員組織とし會員には資格の制限を設けません、入會希望の方は京都市左京區吉田京都大學文學部内京都哲學會（振替口座京都四〇三九番 京都哲學會）宛に規定の會費（年二、〇〇〇圓）をお拂込下さい

又會員への會誌送付、バックナンバー購入及び發賣に關する一切は東京都千代田區一番町一七番地創文社（振替口座東京二一九二四七二番）宛に願います

一、會員の轉居・入退會の事務及び編輯事務の一切は京都哲學會宛に御通知下さい

一、本誌の編輯に關する通信・新刊書・奇賻雜誌等は本會宛にお送り下さい

京 都 哲 學 會

京都市左京區吉田
京都大學文學部内

昭和五十四年四月五日 印刷
昭和五十四年四月十日 發行

編輯兼 京都大學文學部内
發行人 京 都 哲 學 會
編輯代表 杉 山 聖 一 郎

賣捌所 株式會社 創 文 社

久保井理津男

東京都千代田區一番町一七番地
振替口座 東京二一九二四七二
電話東京二六三一七一〇（代表）

印刷所

中光印刷株式會社
東京都豊島區高田一―二―一四

註 文 規 定

一、會員以外の購讀者の御註文及び廣告掲載に關する件は「創文社」へ御申込下さい

一、本誌の御註文はすべて代金送料共（一部、定價七〇〇圓、送料・四〇圓）前金にてお送り下さい

THE JOURNAL
OF
PHILOSOPHICAL STUDIES

THE TETSUGAKU KENKYU

Vol. XLVI

April 1979

No. 6

On the Actual..... Mitsuo Moriguchi

Die Methode des Verstehens bei Max Weber..... Kei Nishitani

Hume's Theories of the External World

and of the Self..... Susumu Tanaka

Kants Theorie der Pflichten..... Shigeo Nagaoka

Published by
THE KYOTO PHILOSOPHICAL SOCIETY
(The Kyoto Tetsugaku-Kai)
Kyoto University

Kyoto Japan